

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成 29 年 10 月
福岡市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象とする児童生徒

(小学校調査)

- ・ 小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年

(中学校調査)

- ・ 中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学〕

国語，算数・数学それぞれ「A 主に知識に関する問題」と「B 主に活用に関する問題」を出題。

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査日時

平成 29 年 4 月 18 日（火）

(小学校調査)

1 時 限 目	2 時 限 目	3 時 限 目	4 時 限 目
国語 A，算数 A (各 20 分)	国語 B (40 分)	算数 B (40 分)	児童質問紙 (20 分程度)

(中学校調査)

1 時 限 目	2 時 限 目	3 時 限 目	4 時 限 目	5 時 限 目
国語 A (4 5 分)	国語 B (4 5 分)	数学 A (4 5 分)	数学 B (4 5 分)	生徒質問紙 (2 0 分程度)

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

児童生徒に対する調査について、平成 29 年 4 月 18 日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

②集計児童生徒数 (4 月 18 日に調査を実施した児童生徒数)

(小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年)

国語 A 11,913 人

国語 B 11,912 人

算数 A 11,913 人

算数 B 11,913 人

(中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年)

国語 A 11,369 人

国語 B 11,366 人

算数 A 11,367 人

算数 B 11,361 人

③集計学校数

(小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年)

小学校 1 4 3 校 (志賀島小は，調査対象児童がいない為，未実施)

特別支援学校 1 校

(中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年)

中学校 6 9 校

特別支援学校 1 校

2 調査結果と考察

(1) 調査結果と考察の考え方

本調査結果については、本市における調査結果を全国及び福岡県と比較して示すとともに、本市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも本市の学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する質問紙調査や学校に対する質問紙調査の結果からも考察を行う。

(2) 教科に関する調査結果の概要

①教科に関する調査結果の概況

小学校調査		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
福岡市(市立)	平均正答率	76.7	58.9	79.3	46.4
全 国 (公立)	平均正答率	74.8	57.5	78.6	45.9
福岡市(市立)	標準化得点	101	100	100	100
全国との比較		+1.9	+1.4	+0.7	+0.5

※福岡市(市立)平均正答率は、市教委算出

※標準化得点：全国(公立)の平均正答率が100となるよう標準化した値

◆国語A、国語B、算数A、算数Bの4分類すべてで全国平均を上回る。

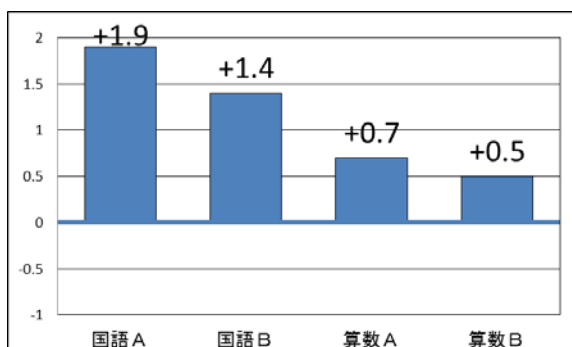
中学校調査		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
福岡市(市立)	平均正答率	77.8	72.2	63.9	47.3
全 国 (公立)	平均正答率	77.4	72.2	64.6	48.1
福岡市(市立)	標準化得点	100	100	99	99
全国との比較		+0.4	0.0	-0.7	-0.8

◆国語Aで全国平均を上回る。

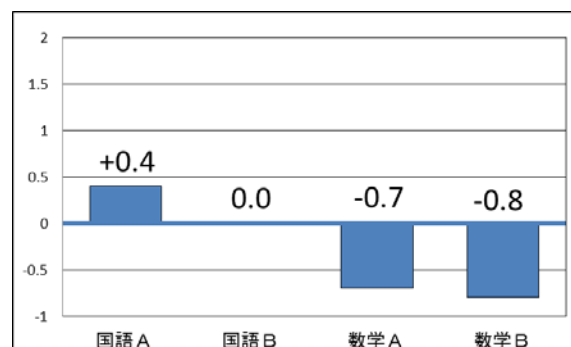
◆数学A、数学Bで全国平均を下回る。

②全国と福岡市の平均正答率の比較

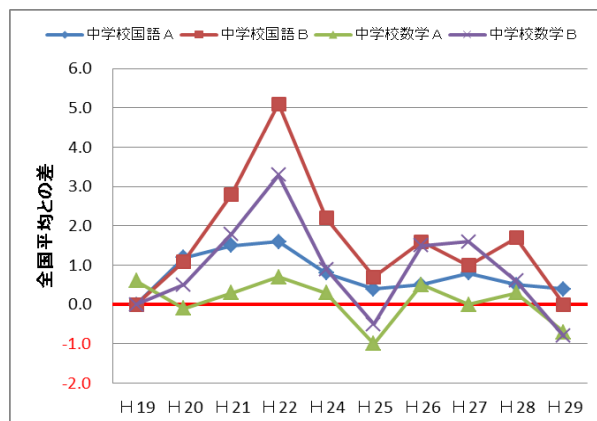
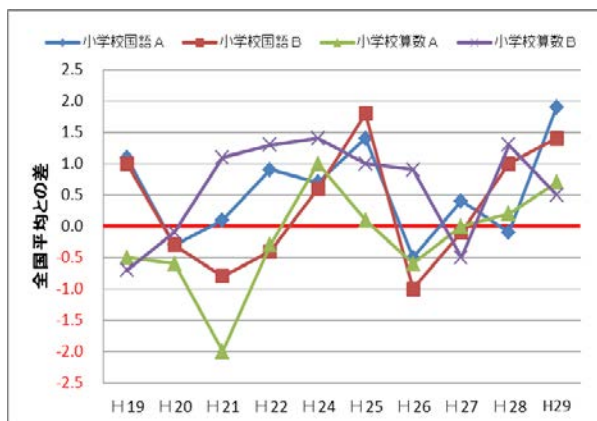
【小学校】



【中学校】



③分類ごとに見た全国と福岡市の平均正答率の経年比較（平成 19 年度～平成 29 年度）
（小学校）（中学校）



（小学校）

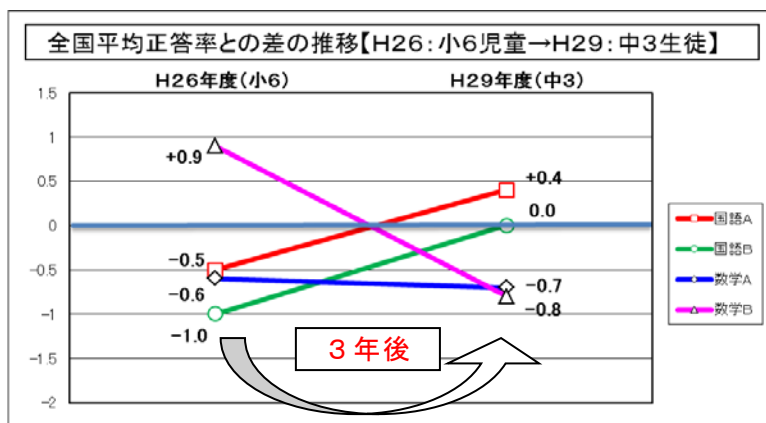
- ◆ 国語Aが前年度比で 2.0 ポイント、国語Bが前年度比で 0.4 ポイント、算数Aが前年度比で 0.5 ポイント上がっている。
- ◆ 算数Bが前年度比で 0.8 ポイント下がっている。
- ◆ ここ 3 年間は、全体的に向上傾向が見られる。

（中学校）

- ◆ 国語Aが前年度比で 0.1 ポイント、国語Bが前年度比で 1.7 ポイント下がっている。
- ◆ 数学Aが前年度比で 1.0 ポイント、数学Bが前年度比で 1.4 ポイント下がっている。
- ◆ 昨年度までの 3 年間はすべての分類が全国平均を 0 ～ + 2 ポイント上回っていたが、今年度は、数学Aと数学Bにおいて全国平均を下回った。

④ H26 年度小 6，H29 年度中 3 の同一児童生徒群結果の経年比較

平成 26 年度の小 6，平成 29 年度の中 3 の同一児童生徒群結果の経年比較



4 分類中 2 分類で上がっている。
国語A +0.9ポイント
国語B +1.0ポイント

4 分類中 2 分類で下がっている。
数学A -0.1ポイント
数学B -1.7ポイント

- ◆ 小学校 6 年生時（平成26年度）においては、算数Bのみ全国平均正答率を上回っていた。3年後の中学校 3 年生時（今年度）の調査においては、国語Aが全国平均を上回り、国語Bが全国と同等であったが、数学Aと数学Bの 2 分類で下がっている。

（学校質問紙から）肯定的回答（４段階中の上位２段階の合計の割合）

問「調査対象児童（生徒）に対して、前年度に、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか」

	H26（小６時）	H29（中３時）
肯定的回答率	6.3%	10.0%
全国との差	-11.2	-5.6

◆肯定的な回答をした学校の割合は全国平均を下回っているものの、全国平均との差は5.6ポイント縮まっている。

問「全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

	H26（小６時）	H29（中３時）
肯定的回答率	89.6%	92.9%
全国との差	-4.9	-1.5

◆H26に比べ、肯定的な回答をした学校の割合は上がったが、全国平均をわずかに下回っている。

（児童・生徒質問紙から）肯定的回答（４段階中の上位２段階の合計の割合）

問「国語の授業の内容はよく分かりますか」

	H26（小６時）	H29（中３時）
肯定的回答率	77.0%	74.9%
全国との差	-3.1	-1.4

◆肯定的な回答をした児童（生徒）の割合がわずかに上がっているが、全国平均をやや下回っている。

問「数学（算数）の授業の内容はよく分かりますか」

	H26（小６時）	H29（中３時）
肯定的回答率	75.7%	64.9%
全国との差	-4.0	-4.5

◆肯定的な回答をした児童（生徒）の割合がわずかに下がり、全国平均を約４ポイント以上下回っている。

問「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

	H26（小６時）	H29（中３時）
肯定的回答率	85.5%	87.2%
全国との差	-1.9	+3.9

◆肯定的な回答をした児童（生徒）の割合がわずかに上がり、全国平均を約４ポイント上回っている。

問「算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

	H26（小6時）	H29（中3時）
肯定的回答率	88.8%	76.6%
全国との差	-0.2	+4.2

◆肯定的な回答をした児童（生徒）の割合は、10ポイント以上下がっているが、全国平均を約4ポイント上回っている。

問「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。」

	H26（小6時）	H29（中3時）
肯定的回答率	57.6%	59.9%
全国との差	-3.8	-2.8

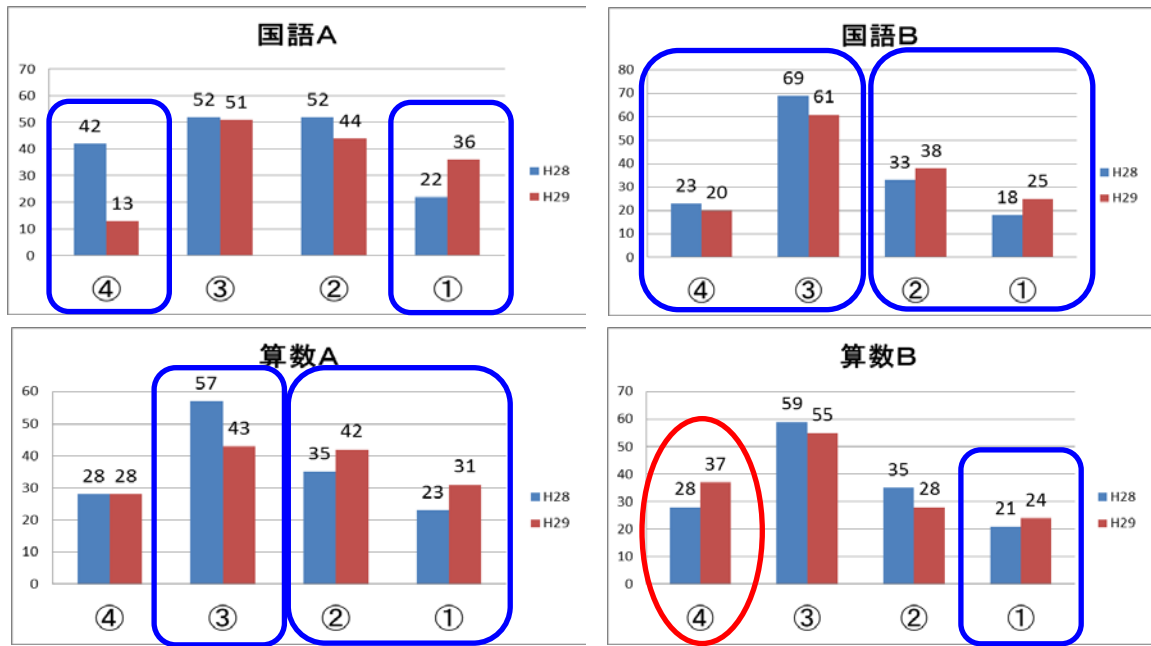
◆肯定的な回答をした児童（生徒）の割合は、わずかに上がっているが、全国平均を約3ポイント下回っている。

問「算数（数学）の授業で問題を解く時、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」

	H26（小6時）	H29（中3時）
肯定的回答率	78.6%	68.8%
全国との差	-0.8	-2.4

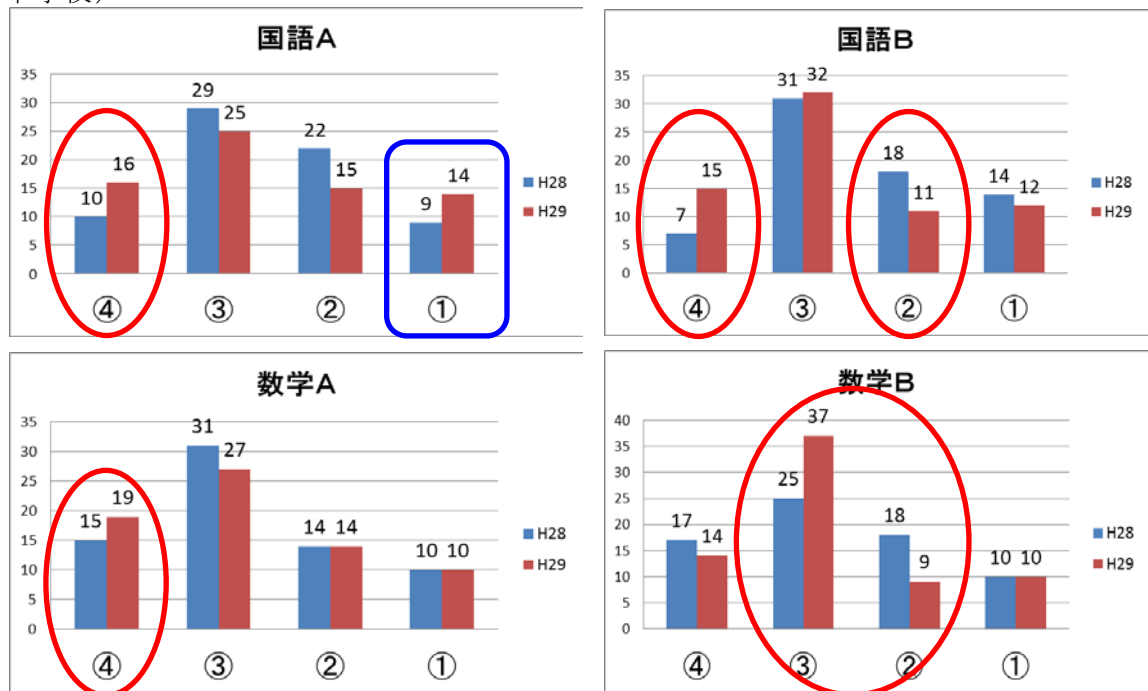
◆肯定的な回答をした児童（生徒）の割合が約10ポイント下がり、全国平均との差も、1.6ポイント広がっている。

⑤ 4段階の各学校群ごとの校数（昨年比）
（小学校）



- ◆ 国語Aは、下位群（④）の校数が減り、上位群（①）の校数が増えている。国語Bは下位群（④）と中位群（③）の校数が減り、上位群（②）（①）が増えている。
- ◆ 算数Aは、中位群（③）の校数が減り、上位群（②）（①）が増えている。算数Bは、上位群（①）が増えたが、下位群（④）の学校も増えている。

（中学校）



- ◆ 国語Aは、上位群（①）の校数が増えたが、下位群（④）の校数も増えている。国語Bは、上位群（②）の校数が減り、下位群（④）の校数が増えている。
- ◆ 数学Aは、下位群（④）の数が増えている。上位群（①や②）の校数に変動は見られない。数学Bは、中位群（③）の校数が増え、上位群（②）の校数が減っている。

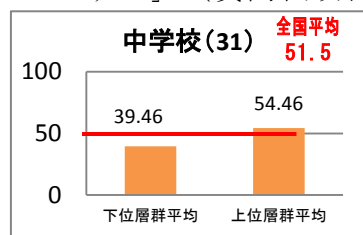
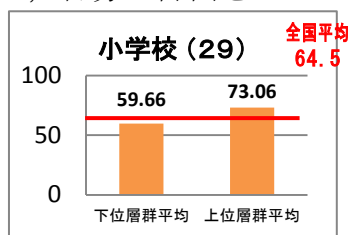
⑥ 学校群と学校・児童生徒質問紙の相関

※上位群，下位群それぞれ無作為に10校を抽出

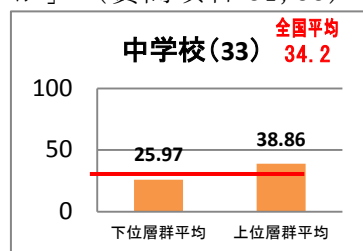
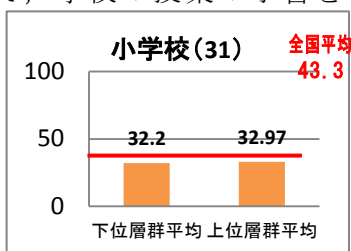
※数値は，肯定的な回答（4段階中の上位2段階の合計値）の平均

○家庭学習にかかわる質問項目

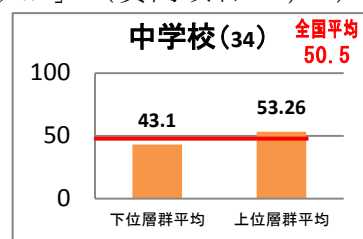
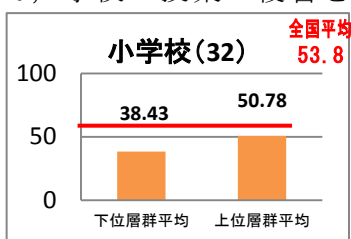
「家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか」（質問紙項目 29, 31）



「家で，学校の授業の予習をしていますか」（質問項目 31, 33）



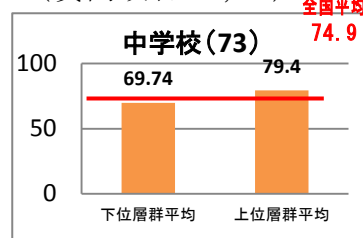
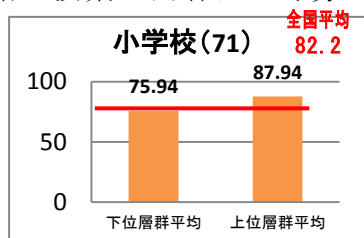
「家で，学校の授業の復習をしていますか」（質問項目 32, 34）



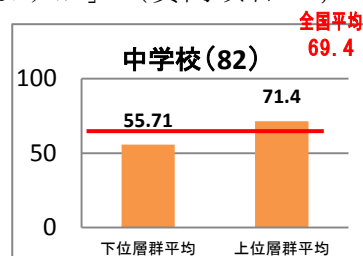
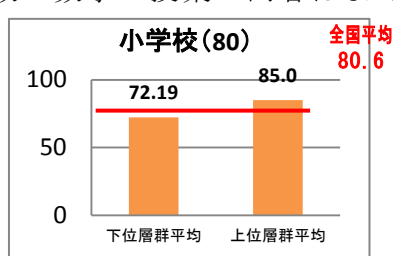
◆上位群と下位群の学校の児童生徒では，「家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問に対する回答で，下位群の学校は上位群に比べ，小学校で約13ポイント，中学校で約15ポイント低くなっている。

○授業の理解度にかかわる質問項目

「国語の授業の内容はよく分かりますか」（質問項目 71, 73）



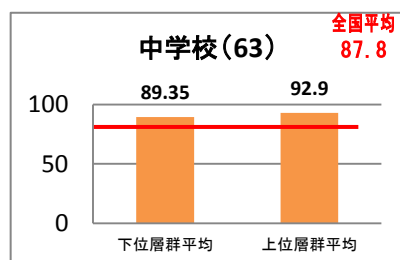
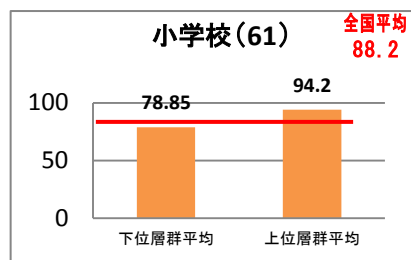
「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」（質問項目 80, 82）



- ◆国語・算数（数学）について「授業の内容はよく分かりますか」の設問に対し、下位群の学校の児童生徒で「わかる」と回答した児童生徒は、上位群に比べ、3項目で約10ポイント以上低くなっている。

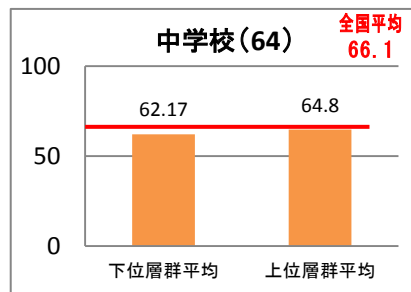
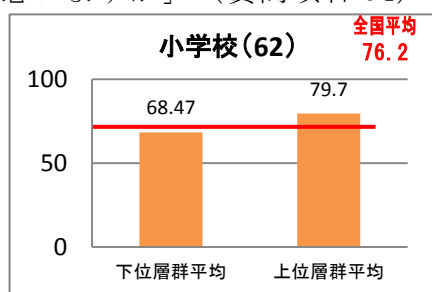
○学習指導にかかわる質問項目

「これまでに受けた授業の中で、めあてやねらいが示されていたと思いますか」



(質問項目
61, 63)

「前学年のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」(質問項目 54)

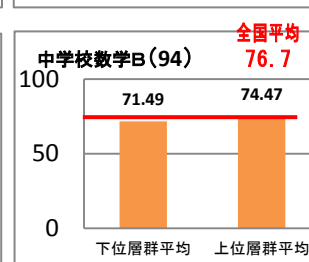
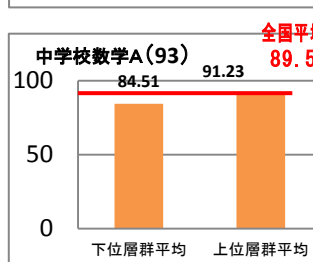
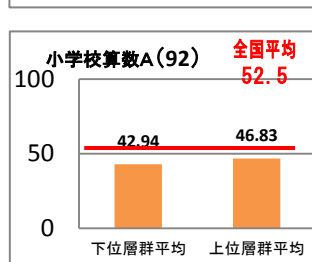
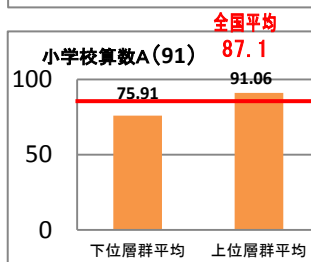
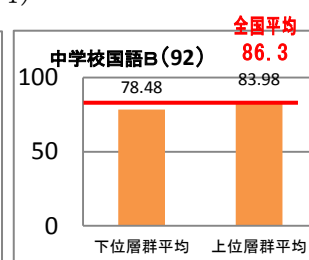
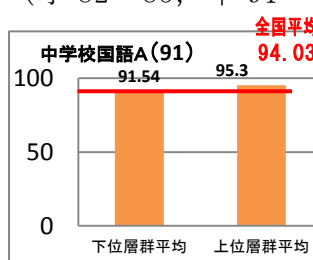
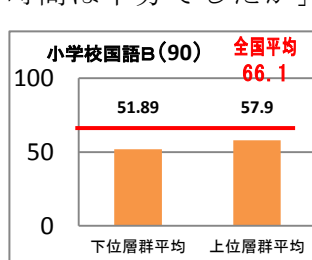
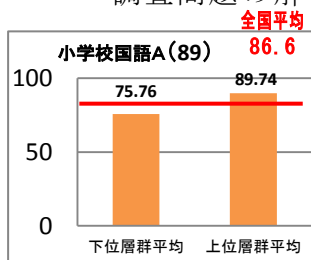


- ◆「これまでに受けた授業の中で、めあてやねらいが示されていたと思いますか」

「前学年のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の設問に対する回答で、下位群の学校は上位群に比べ、小学校で10ポイント以上低くなっている。

○調査問題への意識にかかわる質問項目

「調査問題の解答時間は十分でしたか」(小 82～85, 中 91～94)



- ◆「調査問題の解答時間は十分でしたか」という設問に対し、B問題について「十分だった」と回答している児童生徒が、上位群・下位群に関わらず低くなっている。

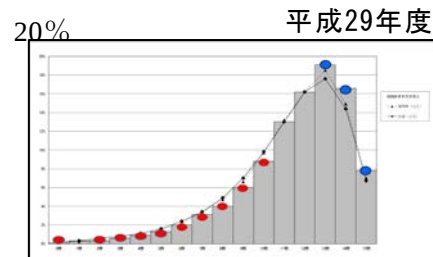
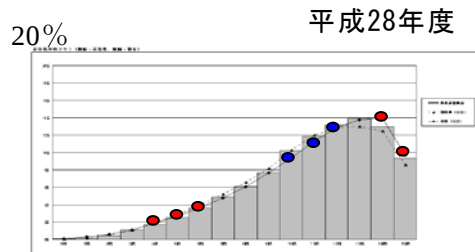
⑦ H28 年度，H29 年度の分類別正答率分布

横軸：正答数 縦軸：割合

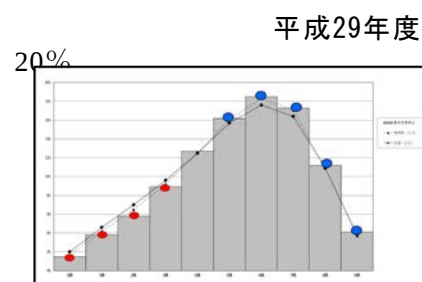
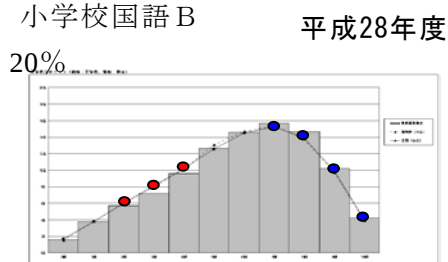
全国正答率分布より ● 上回っている ● 下回っている

福岡市 ■ 福岡県 ▲ 全国 ◆

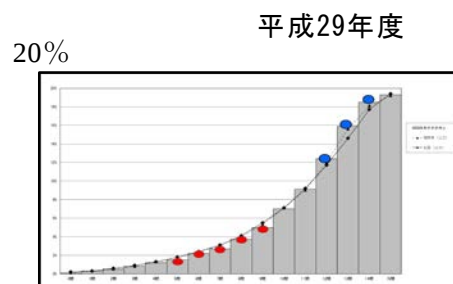
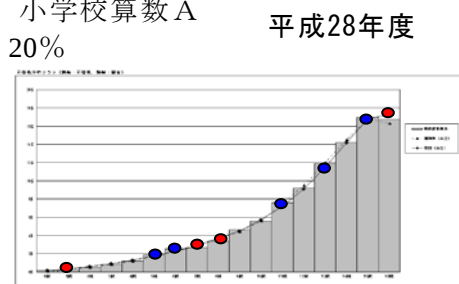
小学校国語 A



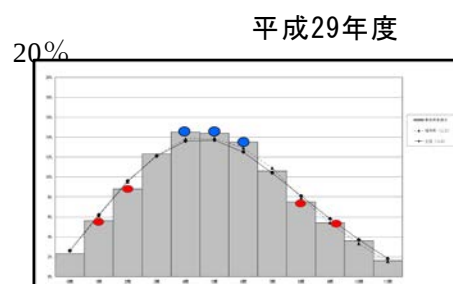
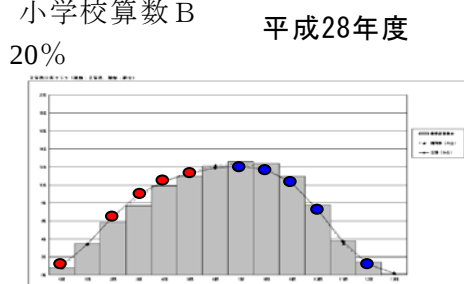
小学校国語 B



小学校算数 A



小学校算数 B



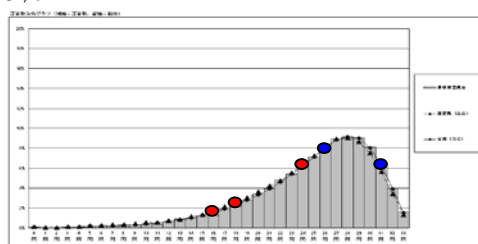
◆国語 A は，下位層と中位層の割合が，全国に比べ少ない。昨年度は，上位層の割合が全国を下回っていたが，本年度は，上回っている。また，国語 B は，昨年同様，下位層の割合が全国を下回り，上位層の割合が全国を上回っている。

◆算数 A は，昨年度，下位層から中位層の割合が全国を上回る部分もあったが，本年度は，下位層から中位層の割合が全国に比べ少なくなっている。また，算数 B については，中位層の割合は全国を上回っているが，上位層の割合が減ってきている。

中学校国語 A

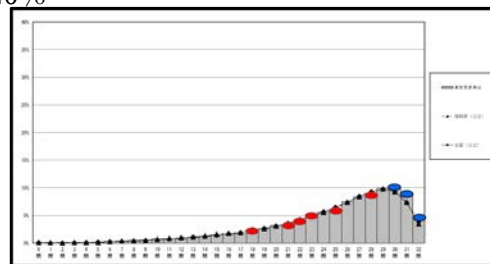
平成28年度

20%



平成29年度

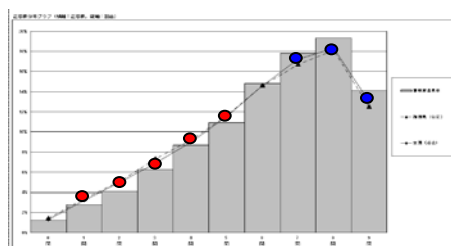
40%



中学校国語 B

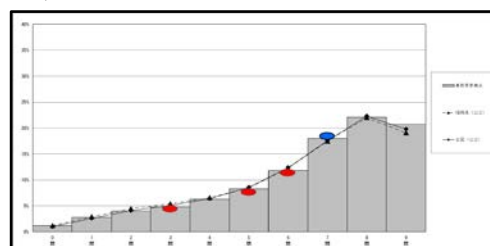
平成28年度

20%



平成29年度

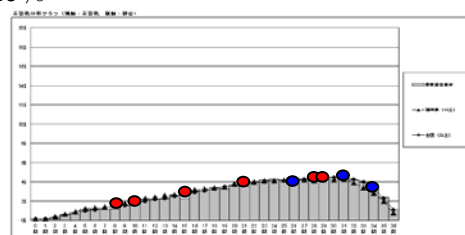
40%



中学校数学 A

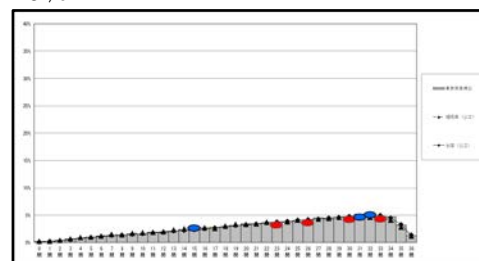
平成28年度

20%



平成29年度

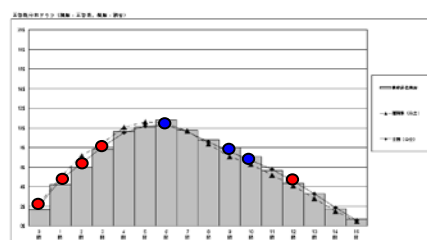
40%



中学校数学 B

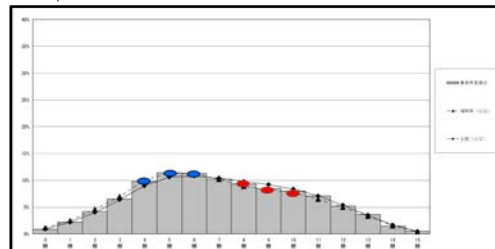
平成28年度

20%



平成29年度

40%



- ◆国語 A は、中位層の割合が全国に比べ少ない。昨年度に比べ、上位層の割合がやや増えてきている。国語 B については、昨年度と比べ上位層の割合が減ってきている。
- ◆数学 A は、昨年度と比べ、大きな変化は見られない。数学 B は、下位層と上位層の割合は、全国の割合と比べほとんど差がない。しかし、下位層から中位層の割合が増え、中位層から上位層の割合が減っている。

(3) 小学校国語に関する調査結果について

①観点・領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（小学校国語）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	76.7	74.8	58.9	57.5
国語への関心・意欲・態度			41.5	41.7
話すこと・聞くこと（能力）	73.6	69.2	68.9	64.9
書くこと（能力）	61.8	60.6	54.2	53.4
読むこと（能力）	73.5	70.2	48.9	49.2
言語についての知識・理解・技能	79.9	78.0		

◆観点・領域ごとでは、国語A、Bともに「話す・聞く能力」「書く能力」で全国平均正答率を上回っている。また、国語Aの「言語についての知識・理解・技能」についても上回っている。

◆国語Bは「国語への関心・意欲・態度」「読む能力」で全国平均正答率を下回っている。

②平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	漢字を読む（期限）	95.6	94.5	+1.1
	漢字を読む（指示）	95.5	94.5	+1.0
国語B	目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す 登場人物の相互関係や心情、描写を捉える	82.1	77.2	+4.9
		75.7	75.9	-0.2

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	手紙の構成を理解し、後付けを書く	42.2	41.5	+0.7
	漢字を書く（参加たいしょう）	46.0	42.0	+4.0
国語B	考えを広げ、深めるための発言の意図を捉える	29.4	28.0	+1.4
	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く	32.7	33.0	-0.3

③児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問	「国語の勉強は好きですか」	59.6% (全国比 -0.9)
問	「国語の授業の内容はよくわかりますか」	81.4% (全国比 -0.8)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (国語A)	84.4% (全国比 -2.2)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (国語B)	55.4% (全国比 -10.7)

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「前年度までに、漢字・語句等基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか」	97.9% (全国比 -0.2)
問	「前年度までに、書く習慣をつける授業を行いましたか」	86.1% (全国比 -7.3)
問	「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	72.9% (全国比 -6.2)
問	「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	34.7% (全国比 -18.0)

◆児童質問紙調査では、「国語の勉強は好き」、「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。また、国語A、Bともに「調査問題の解答時間は十分だった」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。

◆学校質問紙調査では、「補充的な学習の指導を行った」「発展的な学習を行った」と回答した学校は、全国平均を下回っている。

※28年度 (補充的な学習の指導：**-15.6**，発展的な学習の指導：**-28.8**)

※小学校国語の正答率が低かった問題 (国語B)

二【話し合いの様子の一部】の中の~~~~部ア・イの発言は、この話し合いの中で、それぞれの番号を書きましょう。

1 考えのもととなる文章中の表現を明らかにしようとしている。

2 言葉の意味が理解できず、その意味を知ろうとしている。

3 今まで出ていない考えを引き出そうとしている。

4 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめようとしている。

一【話し合いの様子の一部】のAの中に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 にぎやかな

2 不思議な

3 かわいそうな

4 親切な

【話し合いの様子の一部】

横山 あまきみこさんの「きつねの雪」を読んで、心に残ったところはどこかな。

原 (3)を示しながら、「あたりの木がいっせいにざざっとゆれてよびました」というところで

大岩 A 感じがすると思っただけ。

田中 A ことといえば、松ぞうじいさんと吉はきつねだったのかな。

原 二人を写したはずの写真にきつねが写っていたんだから、きつねだよ。

田中 ④を示しながら、「山野さんは、むかいあたりをばちりとつづました」とあるでしょ。

横山 そうだね。それに、(5)を示しながら、「き、きつねの写真だ」と書いてあるしね。

原 二人を写したはずの写真にきつねが写っているってことは、やっぱりきつねなのかな。

大岩 きつねだよ。他にもきつねって考えられるところはあるかな。

田中 (2)を示しながら、「ここで、松ぞうじいさんが「ついてきなせえ」と言っているところがあるでしょ。私は、ここからきつねってわかる気がするんだけど、どうかな。

原 私もそう思う。松ぞうじいさんは、きつねだからきつねのすんでいた穴の場所を知っていて、案内できたんだよね。田中さんの言いたいことはそういうことではないのかな。

田中 そうそう。

横山 (1)を示しながら、「ここにもあるよ。」

田中 「人間にうちどられたり」と書いてあるけれど、もし、松ぞうじいさんが本当に人間なら、「人間に」とか「うちどられた」とは言わないと思うから、松ぞうじいさんはきつねだと考えることもできるね。

田中 そこからも、松ぞうじいさんがきつねだと考えられるね。他にも見つけたよ。

5 (話し合いが続く)

(4) 小学校算数に関する調査結果について

①領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（小学校算数）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	79.3	78.6	46.4	45.9
数と計算	81.7	80.6	54.1	52.8
量と測定	71.4	68.8	46.2	47.0
図形	83.0	81.1	12.5	13.2
数量関係	78.3	79.6	39.5	40.0

②観点ごとの調査結果

区分（小学校算数）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	79.3	78.6	46.4	45.9
算数への関心・意欲・態度				
数学的な考え方			45.5	45.4
数量や図形についての技能	77.6	77.7		
数量や図形についての知識・理解	82.0	79.7	48.8	48.6

◆領域ごとでは、算数Aの「数と計算」「量と測定」「図形」で、算数Bの「数と計算」で全国平均正答率を上回っている。算数Bでは、「量と測定」「図形」「数量関係」で全国平均正答率を下回っている。

◆観点ごとでは、算数A、算数Bのほとんどの観点で上回っている。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
算数A	乗法で表す二つの数量の関係を理解している。 乗法の性質を理解している。	97.2	96.9	+0.3
		91.6	91.0	+0.6
算数B	同じ関係が成り立つことを図に表現する。 示された条件を基に、適切な式を立てる。	83.9	81.8	+2.1
		78.8	76.0	+2.8

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
算数A	資料から二次元表の合計欄に入る数を求める。 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする。	59.5	62.8	-3.3
		62.0	66.6	-4.6
算数B	比較量を判断し、理由を記述する。 仮の平均を用いて、平均の求め方を記述する。	12.5	13.2	-0.7
		23.3	26.1	-2.8

④児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問	「算数の勉強は好きですか」	64.9% (全国比 -1.0)
問	「算数の授業の内容はよくわかりますか」	79.2% (全国比 -1.4)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (算数A)	85.2% (全国比 -1.9)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (算数B)	44.5% (全国比 -8.0)

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数指導を行い、習得できるようにしましたか」	27.0% (全国比 -8.2)
問	「前年度に、習熟の早いグループに対して少人数指導を行い、発展的な内容を扱いましたか」	13.2% (全国比 -12.6)
問	「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	91.0% (全国比 -2.3)
問	「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	48.6% (全国比 -18.3)

◆児童質問紙調査では、「算数の勉強が好き」，「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が全国平均をやや下回り，算数A，算数Bともに，「調査問題の回答時間は十分だった」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。

◆学校質問紙調査では，学習内容の習熟の程度に応じた指導に関して，肯定的に回答した学校の割合が全国平均を下回っている。また，「発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく下回っている。

※28年度（補充的な学習の指導：**-0.1**，発展的な学習の指導：**-29.3**）

※小学校算数の正答率が低かった問題（算数B）

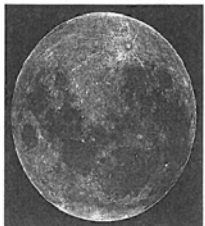
5

月は、地球のまわりを回りながら、地球に近づいたり、はなれたりしています。月の大きさは実際には変わりませんが、月が地球に最も近づいたときに、最も大きく見え、地球から最もはなれたときに、最も小さく見えます。地球から見える満月を円とみて、最も大きく見えるときの見かけの直径を「最大の満月の直径」、最も小さく見えるときの見かけの直径を「最小の満月の直径」ということにします。

「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べたとき、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。



最も小さく見えるとき
(イメージ)



最も大きく見えるとき
(イメージ)

月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。
1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下のとおりです。

1円玉	100円玉	500円玉
 20 mm	 22.6 mm	 26.5 mm

(2) 「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを、言葉や式を使って書きましょう。

1 100円玉

2 500円玉

(5) 中学校国語に関する調査結果について

①観点・領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（中学校国語）	A（主に「知識」）の正答率		B（主に「活用」）の正答率	
	福岡市	全国（公立）	福岡市	全国（公立）
教科全体	77.8	77.4	72.2	72.2
国語への関心・意欲・態度			56.5	55.9
話すこと・聞くこと（能力）	76.2	75.4	73.1	72.4
書くこと（能力）	85.3	85.7	61.1	60.8
読むこと（能力）	74.6	73.8	72.0	72.1
言語についての知識・理解・技能	77.7	77.2	41.3	41.4

◆観点・領域ごとでは、国語A、Bの「話すこと・聞くこと」、国語Bの「書くこと」、国語Aの「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」が全国平均正答率を上回っている。

◆国語Aの「書くこと」、国語Bの「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」が全国平均正答率を下回っている。

②平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	漢字を読む（覚悟）	98.7	98.7	0.0
	適切な語句を選択する（ただし）	95.1	95.5	-0.4
国語B	目的に応じて資料を効果的に活用して話す 登場人物の意味を考え、内容を理解する。	86.0	85.4	+0.6
		85.0	84.1	+0.9

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	事象や行為などを表す多様な語句について理解する 楷書と行書の違いを理解する	33.3	35.8	-2.5
		50.5	49.6	+0.9
国語B	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く 事実や事柄が伝わるように工夫して話す	41.3	41.4	-0.1
		58.9	57.6	+1.3

③生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

(生徒に対する質問紙調査結果)

問	「国語の勉強は大切だと思いますか」	64.0% (全国比 +3.5)
問	「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	87.2% (全国比 +3.9)
問	「国語の授業の内容はよくわかりますか」	73.5% (全国比 -1.4)
問	「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」	52.4% (全国比 -3.2)
問	「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」	59.9% (全国比 -2.8)

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「前年度までに漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか」	100.0% (全国比 +1.6)
問	「前年度までに書く習慣を付ける授業を行いましたか」	94.3% (全国比 -1.4)
問	「前年度までに様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか」	94.3% (全国比 +3.7)
問	「補充的な学習の指導を行いましたか」	80.0% (全国比 -2.3)
問	「発展的な学習の指導を行いましたか」	50.0% (全国比 -17.4)

- ◆生徒質問紙調査では、「国語の勉強が大切だ」「学習したことが将来役に立つ」と答えた生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ◆学校質問紙調査では、「書く習慣を付ける授業を行った」「補充的・発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を下回っている。

※28年度（補充的な学習の指導：-4.2，発展的な学習の指導：-14.8）

※中学校国語の正答率が低かった問題（国語B）

【読書の記録】

書名 スコーレNo.4
著者名 宮下奈都

〈心に残った一文〉

〈感想〉

【本の紹介カード】

自分らしさって何だろう……

古道具屋を営む家に生まれた仲のよい三姉妹。でも、麻子(私)は、自由奔放な妹の七葉との違いをいつも感じています。そのような中で少しずつ自分らしさを見付けていく麻子の成長の物語です。

スコレNo.4
宮下奈都

比喩を用いた表現も素敵です!

三 青山さんは、『本の紹介カード』にある『比喩を用いた表現』に着目して『本の一部』を読み、感じたことや考えたことなどをあとの『読書の記録』に書いています。あなたなら『読書の記録』の〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間を書き加えたりしてもかまいません。

条件1 〈心に残った一文〉は、『本の一部』から、比喩を用いた表現が含まれる一文抜き出して書くこと。

条件2 〈感想〉は、条件1で取り上げた表現について、『読(例)』の『どのような』様子なのかを明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

中国B-6 中国B-5 中国B-1

(5) 中学校数学に関する調査結果について

①領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（中学校数学）	A（主に「知識」）の正答率		B（主に「活用」）の正答率	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	63.9	64.6	47.3	48.1
数と式	70.6	70.4	45.5	46.3
図形	64.6	66.0	47.0	47.1
関数	56.3	57.4	49.1	50.8
資料の活用	57.5	57.6	48.2	49.1

②観点ごとの調査結果の概況

区分（中学校数学）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	63.9	64.6	47.3	48.1
数学への関心・意欲・態度				
数学的な考え方			36.4	36.8
数学的な技能	68.3	68.2	58.7	61.2
数量や図形についての知識・理解	58.6	60.2	85.3	85.1

◆領域ごとでは、数学Aの「数と式」のみが、全国平均正答率を上回っている。

◆観点ごとでは、数学Aの「数量や図形についての知識・理解」、数学Bの「数学的な考え方」が、全国平均正答率を下回っている。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
数学A	正の数と負の数について理解している	90.4	89.4	+1.0
	平行移動した図形をかく	89.1	90.6	-1.5
数学B	与えられた表やグラフから情報を読み取る	91.0	90.8	+0.2
	考察の対象を明確に捉える	80.8	80.4	+0.4

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
数学A	関数の意味を理解している	18.2	20.6	-2.4
	範囲の意味を理解している	26.6	28.6	-2.0
数学B	図形の関係を回転移動に着目して捉える	12.5	14.0	-1.5
	事象と式の対応を捉え、理由を説明する	13.6	14.5	-0.9

④生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

(生徒に対する質問紙調査結果)

問	「数学の勉強は大切だと思いますか」	83.2% (全国比 +2.1)
問	「学習したことは、将来社会に出たとき役に立つと思いますか」	76.6% (全国比 +4.2)
問	「数学の授業の内容はよくわかりますか」	64.9% (全国比 -4.5)
問	「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」	70.1% (全国比 -2.0)

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか」	7.1% (全国比 -20.2)
問	「習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか」	4.3% (全国比 -17.6)
問	「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	87.2% (全国比 -4.7)
問	「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	47.1% (全国比 -24.1)

◆生徒質問紙調査では、「数学の勉強は大切だと思う」「将来役に立つと思う」と回答した生徒の割合が全国平均を上回っているが、「数学の授業の内容がよくわかります」と回答した生徒の割合が全国平均を下回った。

◆学校質問紙調査では、学習内容の習熟の程度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導に関して、肯定的に回答した学校の割合が全国平均を下回っている。

※28年度（補充的な学習の指導：-9.4，発展的な学習の指導：-12.6）

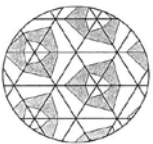
※中学校数学の正答率が低かった問題（数学B）

1 万華鏡は次のような筒状のおもちゃで、中に3枚の鏡を組み合わせた正三角柱が入っています。鏡が内側に向いているので、中をのぞくと、正三角柱の底面にある模様が周りの鏡に映って、美しい模様が見えます。





正三角柱の底面にある模様が図1である場合、図2のような模様が見えます。これは、隣り合う正三角形がすべて、共通する辺を軸に線対称になっているとみることができます。例えば、図3にある4枚の正三角形に着目すると、隣り合う正三角形は、共通する辺を軸に線対称になっていることがわかります。


次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

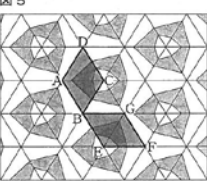
(1) 図3の真ん中にある正三角形が下の図4の模様である場合を考えます。このとき、点線で囲まれた正三角形の模様が、下のアからエまでの中にあります。それを1つ選びなさい。



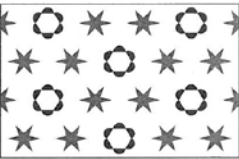




(2) 前ページの図2の模様を図5のように広い範囲で考えます。図5の四角形ABCDの模様は、1回の回転移動で四角形GDEFの模様に重なります。四角形ABCDの模様は、どのような回転移動によって四角形GDEFの模様に重なるか書きなさい。



(3) 図6のような模様を作ろうとすると、そのもととなる正三角形はどのような模様にすればよいですか。下のアからエまでの中に、もととなる正三角形の模様があります。それを1つ選びなさい。








中数B-1

中数B-2

【参考資料】主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する状況

(1) 小学校

① 学校質問紙の結果

項目番号	学校質問紙の項目	28市	28国	28差	29市	29国	29差	28-29
(19)	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	47.6	61.2	-13.6	52.1	63.0	-10.9	2.7
(32)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	83.9	90.1	-6.2	82.6	91.5	-8.9	-2.7
(36)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	86.0	94.8	-8.8	87.5	95.5	-8.0	0.8

② 小学校児童質問紙の結果

項目番号	児童質問紙の項目	28市	28国	28差	29市	29国	29差	28-29
(60)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	61.0	64.2	-3.2	63.6	64.9	-1.3	1.9
(68)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	64.9	68.3	-3.4	65.0	68.2	-3.2	0.2

- ◆ 学校質問紙では平成28年度と比べ、2項目で向上している。しかし、全国平均と比べると大きく下回っている。
- ◆ 児童質問紙では平成28年度と比べ、2項目とも向上している。しかし、全国平均と比べるとやや下回っている。
- ◆ 「話の組み立てを工夫して発表する」についての学校質問紙(19)と児童質問紙(60)を比較すると(学校質問紙：52.1%，児童質問紙63.9%)，11.5ポイントの開きがあり、教師がまだ十分でないと捉えている。
- ◆ 「考えの深まりや広がり」についての学校質問紙(36)と児童質問紙(68)を比較すると(学校質問紙：87.5%，児童質問紙65.0%)，22.5ポイントの開きがある。教師は、考えを引き出した入り、思考を深めたりするような発問や指導を工夫していると考えているが、児童は、考えの深まりや広がりを実感できていない。

(2) 中学校

①学校質問紙の結果

項目番号	学校質問紙の項目	28市	28国	28差	29市	29国	29差	28-29
(19)	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	42.0	59.7	-17.7	44.3	61.2	-16.9	0.8
(32)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	82.6	88.6	-6.0	85.7	89.6	-3.9	2.1
(36)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	78.2	93.3	-15.1	85.7	93.9	-8.2	6.9

②中学校児童質問紙の結果

項目番号	児童質問紙の項目	28市	28国	28差	29市	29国	29差	28-29
(62)	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	54.7	57.7	-3.0	53.7	57.9	-4.2	-1.2
(70)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	64.8	64.8	0.0	63.3	64.8	-1.5	-1.5

- ◆ 学校質問紙では、平成28年度と比べ、すべての項目で向上している。しかし、全国平均と比べると大きく下回っている項目がある。
- ◆ 児童質問紙では、平成28年度と比べ、2項目とも低下している。また、全国平均と比べてもやや下回っている。
- ◆ 「話の組み立てを工夫して発表する」についての学校質問紙(19)と生徒質問紙(62)を比較すると(学校質問紙：44.3%，生徒質問紙53.7%)，9.4ポイントの開きがあり、小学校と同様教師がまだ十分でないと捉えている。
- ◆ 「考えの深まりや広がり」についての学校質問紙(36)と生徒質問紙(70)を比較すると(学校質問紙：85.7%，児童質問紙63.3%)，22.4ポイントの開きがある。小学校と同様で、考えを引き出した入り、思考を深めたりするような発問や指導を工夫していると考えているが、生徒は、考えの深まりや広がりを実感できていない。

3 今後の課題

- ◆小学校の平均正答率は、国語A、国語B、算数A、算数Bのすべての分類で全国平均を上回り、特に、国語科Aで大きな伸びが見られた。中学校の平均正答率は、国語Aで全国平均を上回り、国語Bは、全国平均と同等であったが、数学A、数学Bで、全国平均を下回ったため、中学校数学の学力向上のための取組が急務である。
- ◆平均正答率の経年比較では、ここ3年間、小学校で上昇の傾向が見られ、中学校ですべての分類で全国平均を上回っていたが、数学Aと数学Bにおいて全国平均を下回った。また、小学校6年生時と中学校3年生の同一児童生徒の経年比較では、小学校6年生時に比べ国語A国語Bで上昇が見られたが、数学A、数学Bで下降している。今後は、小学校での調査結果を中学校が共有し、学力の実態に応じて、小中が連携して取り組む必要がある。
- ◆児童生徒の正答率分布の状況では、小学校の算数Bで中位層の割合が増えて、上位層の割合が減り、中学校の数学Bで、下位層から中位層の割合が増えている。そのため、算数・数学において、それぞれの実態に応じた系統的な学力向上の取組が必要である。
- ◆児童生徒質問紙において、「国語の授業の内容はよく分かりますか」「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」といった授業理解に関する項目の肯定的回答率が、小学校中学校ともに全国平均と比べて下回っている。そのため、今後も児童生徒が「わかる」「できる」を実感できる指導方法の工夫が必要である。

4 取組の方向性

(1) 各学校での取組の努力点

- ◆個々の学力向上をめざした指導方法の工夫
 - ・例 学習のまとめにおける指導方法の工夫
 - ・例 主体的・対話的で深い学びに関する指導方法の工夫
 - ・例 少人数指導の積極的な活用や補充・発展の時間の有効的な活用
- ◆個々の課題に応じた家庭学習の工夫
 - ・例 正答率が低かった問題の学び直し
 - ・例 選択式の導入

(2) 教育委員会としての取組

- ◆学力向上のための指導資料を活用した、指導主事による学校訪問での指導
 - ・各学校の学力課題や生活習慣の課題に応じた学校との双方向的な協議
- ◆「学力向上のための研究大会」の開催
 - ・学力課題に応じた指導事例の紹介
 - ・取組内容の共有